

家計における有料道路料について

名古屋第二環状自動車道（名二環）が2021年5月に全線開通しました。これに合わせて、連絡する名古屋高速道路ほか、東海環状道の内側にある名神高速道路、東海北陸自動車道、東名阪自動車道、中央自動車道、東名高速道路の各高速道路の高速道路料金が、一斉に改正されました。遠出する時や急ぎの時など有料道路を利用しますが、「有料道路料（※1）」について、2019年全国家計構造調査（一部「家計調査」）からみていきたいと思ひます。

※1 自動車、オートバイなどで通行の際、料金を徴収する道路の利用料。高速道路以外の有料道路の利用料も含む。

○ 「有料道路料」の消費支出と支出割合

愛知県の二人以上の世帯の1か月の「有料道路料」の支出は1,036円で、交通費全体（4,733円）の21.9%となっています。一方、全国の二人以上の世帯の1か月の「有料道路料」の支出は732円で、交通費全体（5,260円）の13.9%となっており、愛知県の「有料道路料」の支出割合は、全国に比べて8.0ポイント高くなっています（表1）。

表1 交通費における消費支出及び支出割合（二人以上の世帯）

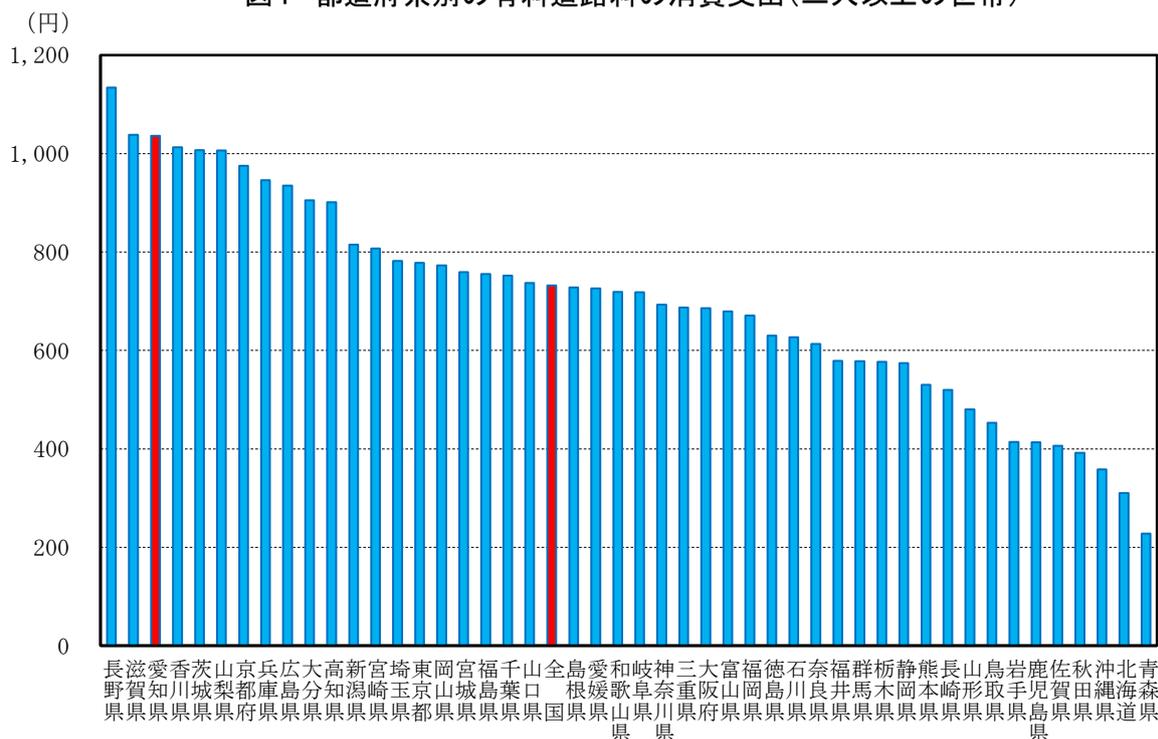
費目		愛知県		全国	
		消費支出(円)	割合(%)	消費支出(円)	割合(%)
交通費計		4,733	100.0	5,260	100.0
内 訳	鉄道運賃	1,787	37.8	1,939	36.9
	鉄道通学定期代	70	1.5	168	3.2
	鉄道通勤定期代	774	16.4	1,072	20.4
	バス代	136	2.9	285	5.4
	バス通学定期代	48	1.0	41	0.8
	バス通勤定期代	56	1.2	97	1.8
	タクシー代	295	6.2	379	7.2
	航空運賃	430	9.1	461	8.8
	有料道路料	1,036	21.9	732	13.9
	他の交通	102	2.2	86	1.6

資料：総務省「2019年全国家計構造調査」

○ 都道府県別「有料道路料」の消費支出

二人以上の世帯の1か月の「有料道路料」の支出について都道府県別にみると、愛知県（1,036円）は、長野県（1,134円）、滋賀県（1,038円）に次いで、第3位と高い順位となっています。また、全国（732円）よりも高いのは20都府県です（図1）。

図1 都道府県別の有料道路料の消費支出(二人以上の世帯)



○ 単身世帯の「有料道路料」の消費支出と支出割合

愛知県の単身世帯の1か月の「有料道路料」の支出は、男性の単身世帯は980円で、交通費全体(4,160円)の23.6%となっています。女性の単身世帯は201円で、交通費全体(4,782円)の4.2%となっています。

また、全国の単身世帯の1か月の「有料道路料」の支出は、男性の単身世帯は446円で、交通費全体(5,572円)の8.0%です。女性の単身世帯は221円で、交通費全体(5,110円)の4.3%となっています。

愛知県の男性の単身世帯の交通費全体における「有料道路料」の支出割合は、全国に比べて15.6ポイント高くなっていますが、女性の単身世帯の支出割合は全国に比べて0.1ポイント低くなっています(表2)。

表2 単身世帯の有料道路料の消費支出及び支出割合

費目	愛知県				全国			
	消費支出(円)		割合(%)		消費支出(円)		割合(%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
交通費計	4,160	4,782	100.0	100.0	5,572	5,110	100.0	100.0
うち 有料道路料	980	201	23.6	4.2	446	221	8.0	4.3

資料:総務省「2019年全国家計構造調査」

○ 都市階級別・地方別の「有料道路料」の消費支出

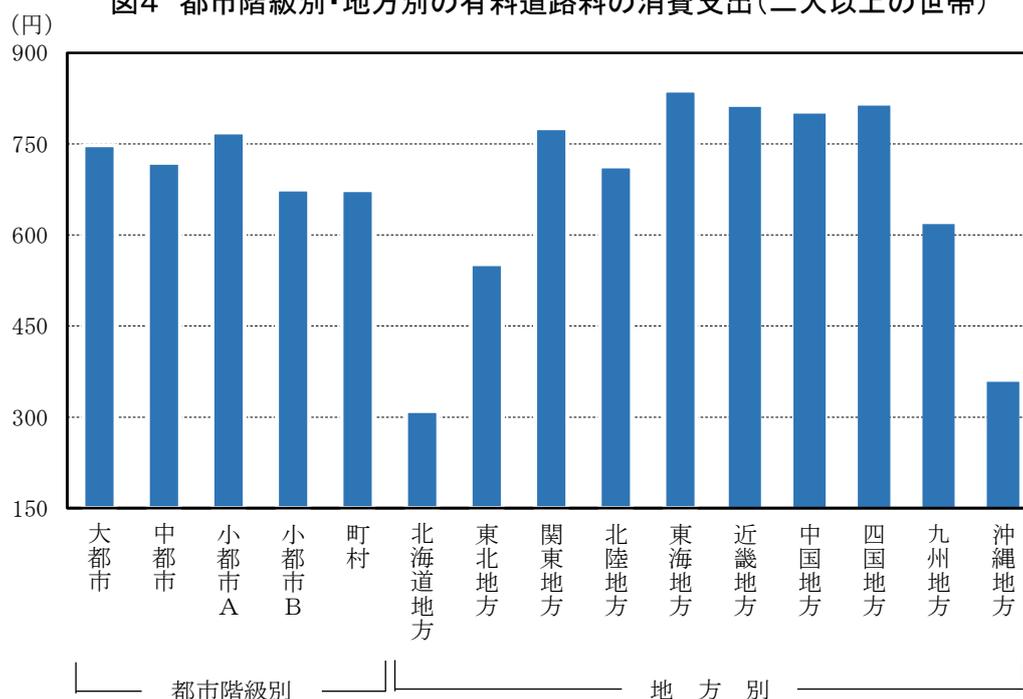
二人以上の世帯の1か月の「有料道路料」の支出を都市階級別（※2）にみると、大都市は748円、中都市は719円、小都市Aは769円、小都市Bは675円、町村は674円と、小都市Aが最も多く、大都市や中都市より多い支出となっています（図4）。

次に、地方別にみると、東海地方が838円と最も多く、次いで、四国地方は813円、近畿地方は811円、中国地方は800円、関東地方は776円、北陸地方は713円、九州地方は618円、東北地方は552円、沖縄地方は358円、最も少ないのは北海道地方で310円となっています（図4）。

※2 都市階級の区分は以下による

- ・大都市：政令指定都市及び東京都区部（東京都区部は23区で一つの区域とした）
- ・中都市：人口15万以上100万未満の市（政令指定都市を除く）
- ・小都市A：人口5万以上15万未満の市
- ・小都市B：人口5万未満の市
- ・町村：町村

図4 都市階級別・地方別の有料道路料の消費支出(二人以上の世帯)



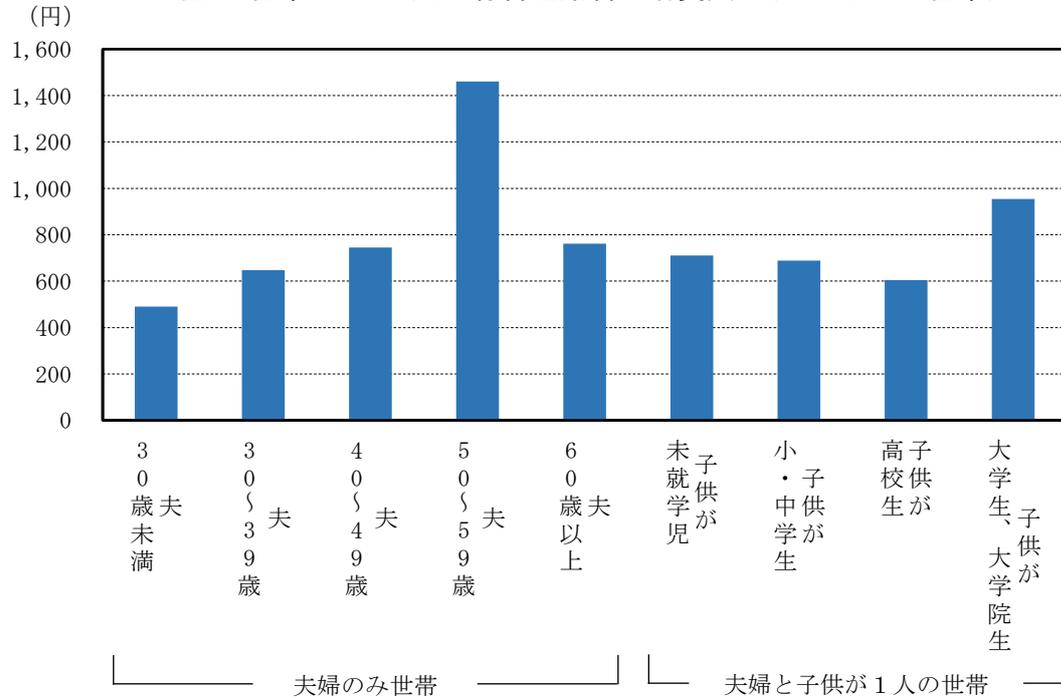
資料:総務省「2019年全国家計構造調査」

○ 世帯のタイプ別「有料道路料」の消費支出

県別の資料が無いいため、ここでは全国についてみていきます。全国の二人以上の世帯の1か月の「有料道路料」の支出は、夫婦のみの世帯では、夫の年齢30歳未満の世帯が491円で最も少なく、夫の年齢が上がるにつれて増加し、夫の年齢50～59歳の世帯が最も多く1,461円となっていますが、夫の年齢60歳以上の世帯では逆に減少し、762円となっています（図5）。

夫婦と子供1人の世帯では、子供が未就学児の世帯では711円で、子供の成長とともに減少し、子供が高校生の世帯では最も少なく604円となっていますが、子供が大学生、大学院生の世帯では954円と増加し、最も多くなっています（図5）。

図5 世帯のタイプ別の有料道路料の消費支出(二人以上の世帯)



資料:総務省「2019年全国家計構造調査」

○ 最後に

大都市圏の高速道路を中心に、渋滞が見込まれる時間帯や経路で料金を上げ、交通量が少ない状況では料金を引き下げる変動料金制が導入される見通しであり、有料道路料の料金体系のあり方が変わろうとしています。それが、家計における有料道路料にどのように影響するか注目していきたいと思います。